道徳教育のカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、教育課程や指導方法等をPDCAのサイクルにもとづいて不断に見直し、改善を図ることにより、学校教育の質を高めることです。道徳教育については、学校が定めた重点内容項目について、道徳の時間はもとより各教科等における指導が計画的に行われ、その実施状況を教師間で共有することが必要です。

そこで本校では、道徳教育全体計画の別葉を活用しながら、重点内容項目に関連する指導をより一層充実させることができるよう、次のようなマネジメント・サイクルに沿った取組を行ってまいります。

Plan 1　重点内容項目の設定

◆学校の教育目標の冒頭「国際性豊かな社会人をめざして」
◆学校としての「国際性」の定義付け（平成 27 年度）

本校がめざす国際性は、外国語によるコミュニケーションはもとより、次の三つの要素から成る。

1　互いが同じ人類の仲間であるという自覚をもち、誰に対しても偏見や差別意識をもつことなく、公正、公平に接すること。
2　我が国や郷土の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもつとともに、他国の伝統・文化を理解して尊重し、互いに文化交流を行うこと。
3　様々なものの見方や価値観があることを踏まえ、物事を多様な観点から論理的に考察し、自分の考えを根拠にもとづいて説得力をもった言葉で表現すること。

◆三要素を踏まえ、４（３）、４（９）、２（５）を重点内容項目として設定

Plan 2　別葉の作成

◆道徳教育全体計画別葉の作成（平成 28 年度 1 学期）
◆作成の主な手順は次のとおり

1　別様作成のねらいの共有
ねらいは、本校の重点内容項目に係る学習指導を各教科等で着実に実施することにある。
2　各教科等で道徳教育を進める際の配慮点の理解
中学校学習指導要領解説総則編「第６節　道徳教育推進上の配慮事項」の「1　道徳教育の指導体制の全体計画」にある、各教科等で道徳教育を行う際に配慮すべき点を踏まえる。
3　重点内容項目に関連する指導内容の抽出
本校の重要内容項目に関連する指導内容を、各教科等の年間指導計画から「別様」の様式に転記し、末尾に内容項目の記号を付す。

◆活用のための工夫点
・ 拡大印刷をして職員室に掲示
・ 実施済を示す印と変更点等を赤ペンで加筆

Do　研究授業の実施

◆　道徳の時間の授業については、一つの学年ごとに授業を公開し、他学年の教師全員が参観
◆　参観者は、発問、話合い、書く活動、板書、説話などの工夫が有効であったかを中心に観察

研究授業の活性化に向けた工夫

1　当該の学年会および研究推進委員会が、協働で学習指導案を作成し、　授業の実施結果について共に責任を負う体制を確立

2　協働で作成した学習指導案をもとに、いわゆる事前授業を実施。できるだけ多くの教師がこの授業を観察し、感想や意見を学習指導案に反映

◆　参観者は、授業者の発問や生徒のつぶやきなど、事実をできるだけ詳しく記録し、研究協議会の資料として活用

Check　研究協議の実施

1　研究協議の主な視点
本校の「道徳授業の指針」にもとづき、次の五つを共有

(1) 生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解することができたか。
(2) 自分を見つめさせるための指導は、有効であったか。
(3) 授業のねらいの達成に向け、発問は適切であったか。
(4) 生徒の多面的・多角的な思考を促していたか。
(5) 生徒一人一人の道徳的な成長を認め、褒め、励ますことができたか。

2　協議活性化に向けた工夫
○　協議会の中心テーマを決め、参観者に事前周知
○　授業記録に基づく、生徒の実態に即した話合い
○　ブレーンストーミングや２・３人のグループ協議の導入

Action　別葉および授業研究にもとづく改善

1　別葉の実施結果にもとづく改善
本校の重点内容項目に係る各教科等の学習指導について、次の観点から見直し、次年度の年間指導計画の立案に反映

(1) 指導内容の選択
取り上げた事項のまとめ方や重点の置き方

(2) 指導内容の組織化
各教科、道徳、総合的な学習の時間および特別活動について、各教科等間の指導内容相互の関連付け

2　研究協議の結果を踏まえた他学年による授業公開
○　研究協議で明らかになった事項を生かし、他学年が公開授業を実施
○　コメントカード等を活用し、感想や更なる授業改善のアイデア等を交換
○　「道徳の授業指針」の見直し・改善

次年度の教育課程編成